

# いわいしま通信

## 第3回祝島不老長寿マラソン無事終了！

今年で3回目を迎えた祝島不老長寿マラソンが、8月10日(日)に開催されました。今回はゲストランナーとして、落語家の三遊亭楽松さんをお迎えし、13kmの部、2kmの部をあわせて140名のランナーの皆さんが、夏の祝島を舞台に健脚を競いました。



直前に台風10号が接近し、ギリギリまで開催できるかどうか心配でしたが、大会当日は、台風一過のすばらしい青空になりました。また、大会前日の夕日ウォッチジョギングも、3年目にして初めて水平線に沈むすばらしい夕日を眺めることができ、参加者の皆さんからは感動の拍手が沸いていました。

大会当日は、今年もまた沢山のボランティアの皆さんにご協力いただきました。ありがとうございました。尚、大会実行委員会から参加費収入の5%(20850円)を祝島ネット21神舞基金に寄付いたしました。

### 目次

不老長寿マラソン	1
祝島寄席	1
祝島の歴史を探る	2
魚・さかな・肴	5
「神舞」映写会	5
花*花クイズ	6
祝島史跡めぐり	6
会員リレーコラム	7
祝島懐かしの料理	8
Lets learn English in Iwaishima!	9
お知らせ&募集	10

## 祝島寄席」 in 善徳寺

祝島不老長寿マラソンにゲストランナーとして参加された三遊亭楽松さんご出演の「祝島寄席」を8月10日の午後に善徳寺で開催しました。

祝島で目にした物や、出来事などを早速ネタに取り入れて笑い話をされるところはさすがにプロ!でした。予定の1時間を越える熱演に、場内は爆笑の渦に包まれていました。



三遊亭楽松さん



会場は善徳寺の本堂



楽松さんに書いていただいた色紙です

「白いからしを三尺もろて、何に染めよと紺屋にき  
けば 一に橋 二にかきばた 三に下り藤 四にや  
獅子ばたん、五ついやま祝山)の十本桜」  
(江戸末期の民謡より)

## < 連載 > 祝島の歴史を探る (7) ~ “屋号 “について~ 蛭子 葉子

後先が逆になりましたが、前回の「シコナ」に続き今回は「屋号」の話です。下記に記載の屋号は、前号でふれた梅光女学院・岡野先生、県史編纂室・金谷氏が平成6年の屋号調査に来られた時の報告書に加筆したものです。報告書は私の家に保管してある江戸後期の寺子屋の手習い手本に書かれた島の屋号を基に、橋部さん達から概要を聞かれたお二人が島の古老に聞き取り調査を行いまとめたものです。ここに書かれた1軒1軒にそれぞれの歴史があり物語があります。しかし個人で知っていることには限界があるので、ご存知の方があれば是非会報に書いて下さい。

### 1. 居住場所にちなんだ屋号

イワミヤ	岩見屋	島の江戸期の島名をそのまま屋号としている。どの家の屋号だったかわからない。
イワキヤ	岩城屋	「岩木屋」とする文献もあった。屋号の語形から「岩見屋」の分家と思えるが岩見屋がどの家であるかわからないので、その関係も不明である。
ミナトヤ	湊屋	
イソヤ	磯屋	
ハマヤ	濱屋	江戸後期の庄屋。現在は旅館である。
ハマダヤ	濱田屋	回漕業を営み、かつ大きな魚問屋であった家。その先代ごとの家長は大阪方面に押し船で魚を商った利権者だった。
イソノウエ	磯の上	「湊屋」の分家だという。「ジンペー」というシコナで呼ばれることもある。
ハナサキヤ	岬崎屋	海に突き出た位置にあった家であろうか。現在は他出。
ツキダシヤ	築出屋	海に突き出た位置にあった家であろうか。現在は無い。
カドヤ	角屋	角地にあった家。
クボヤ	久保屋	窪地にあった家であろう。姓も久保であり、久保姓は何軒もあるので本家は「ホンクボ」と呼ばれている。
ダケ	崖	高い所にある家。古くからの家で以前は漁業（たこくり）をしていたという。屋号の漢字は石山但信の「周防祝島方言」「天文地理の部」にこの漢字があてられている。

上記は柳田國男全集第30巻に記載有

### 2. 住居の状況を言う屋号

ナカヤ	中屋	一族の家が並んでいる、その中央にあった家を言ったと思われる。
ナカモトヤ	中元屋	中屋とは姓も異なり関係はなさそうである。三浦によい土地をもっていた家だという。
イタヤ	板屋	諸地にある屋号で旧家である。草葺き屋根が一般の頃に板屋根の家であったか。あるいは板を扱う職業の家だったかもしれない。
クラ	蔵	「アタラシヤ」の蔵を購入して住居とした家。

### 3. 目標物を言う屋号

カワモトヤ	川本屋	共同井戸のそばの家。「川」は井戸をいう方言である。
カワサキヤ	川崎屋	共同井戸と関係のある屋号かもしれない。
カワシタ	川下	共同井戸の下の家。これは姓だろうと言う説もあった。石丸左馬頭の邸を買って建てた家だという。
ヤクシヤ	薬師屋	薬師堂の近くの家。東薬師、西薬師、中薬師と三軒ある東薬師が本家である。本家は三浦三軒の一家である。
フダバヤ	札場屋	高札場近くの家。どの家の屋号かは明らかで無い。

### 4. 旧国名・都市名町村名を言う屋号

ソノクニヤ	津国屋	摂津国との関係は不明。嘉名として名乗ったのであろうか。
オーサカヤ	大阪屋	終戦後、大阪屋と看板を上げて衣類などを商っていた家。この家の世帯主は祝島の女性を妻とした大阪の人であった。
アカシヤ	明石屋	
イマズヤ	今津屋	
ショウドシマ	小豆島	当主の祖父が小豆島からきた人で、島の人々はこう呼んだという。
トモヤ	鞆屋	福山市の鞆から来住した家。この屋号は今も人々の口にのぼる。
ヤナイヤ	柳井屋	
イヅモヤ	出雲屋	
サエキヤ	佐伯屋	
ムロツヤ	室津屋	
ソメイヤ	染井屋	
カヨイヤ	通屋	
オーボシヤ	大星屋	

チクゼンヤ	筑前屋	
カワタナヤ	川棚屋	
ブンゴヤ	豊後屋	豊後から来島した家。蛸くり漁をしていた家。
クマヤ	熊本屋	熊本から漁に来てそのままここに落着いた家。
サツマヤ	薩摩屋	出身が薩摩かどうかは不明。生簀を持っていた大きな魚問屋であった。

## 5. 嘉名を言う屋号

ツルヤ	鶴屋	
カメヤ	亀屋	
ツルシマヤ	鶴島屋	
ウメヤ	梅屋	
マツヤ	松屋	本家株の一家である。
フジヤ	藤屋	以前は大洋漁業と張合うほど大きな漁業者であった家。回漕業であったという人もいる。現在は他出。
ハナヤ	花屋	諸地にあるが命名事情は不明。
エベスヤ	蛭子屋	福神を家の名に言ったもの。蛭子社が近かったとも考えられる。(祠が祭ってあった)
エベスヤ	戎屋	現在島には「恵比寿」姓、「蛭子」姓の家はともに数軒あるが、「戎」姓の家はない。
エベスヤ	恵比寿屋	
ダイコクヤ	大黒屋	江戸時代は回漕業で大石丸という船を持っていた。現在の姓は「大石」である。
スミヨシヤ	住吉屋	住吉の神をまつた家であろう。八島にもあった屋号である。
ホーライヤ	蓬莱屋	「宝来屋」と記したのもあった。魚屋であった。
タワラヤ	俵屋	東浜にある家。「俵」は豊作のシンボルであろうか。年寄りには祭りの際に門に下げた提灯の「俵屋」の文字を記憶している。
タワラヤ	田原屋	「広島田原屋」といっていたかもしれない。
マシヤ	榭屋	大家であったと人々は記憶している。
ツチャ	槌谷	農家。弘化二年(1845)に瓦屋根の家を建てたと伝えられる。祝島では最初の瓦屋根の家であったという。
コバンヤ	小判屋	富のシンボルであろうか。
カネヤ	金屋	嘉名ではなく、実際に金融業を営んでいたか。不詳。
イマガネヤ	今金屋	「金屋」の分家であろうか。不詳。
シラカネヤ	白金屋	「金屋」「今金屋」と関連する名のようにみえるが関係は不詳。
タフクヤ	多福屋	
フクシマヤ	福島屋	
ダイダイヤ	代々屋	三浦三軒といわれている家の一家である。家が代々続くようにと屋号に託している。
ニシキヤ	錦屋	
トラヤ	登良屋	家運の隆盛を願っての当て字であろう。
アズマヤ	東屋	島の東部の家。「アズマヤ」は稚号的である。
アズマヤ	阿妻屋	以前は回漕業。現在は旅館(?)。「東屋」と「阿妻屋」は同姓である。本家と分家が同一屋号を名乗って文字を替えたのであろうか。

## 6. 分家称を言う屋号

アタラシヤ	新し屋	石丸左馬頭の一族であるという。以前は鱒網の網元であった。
オキノハヤ	沖の平屋	沖に住居を構えた分家。「島屋」の分家と言う説と、こちらが本家と言う説がある。
ハシノハヤ	端の平屋	中郷の端にある家である。先祖は光明寺から養子に来たらしい。

## 7. 「姓+屋」「姓の一字+屋」の形式の屋号

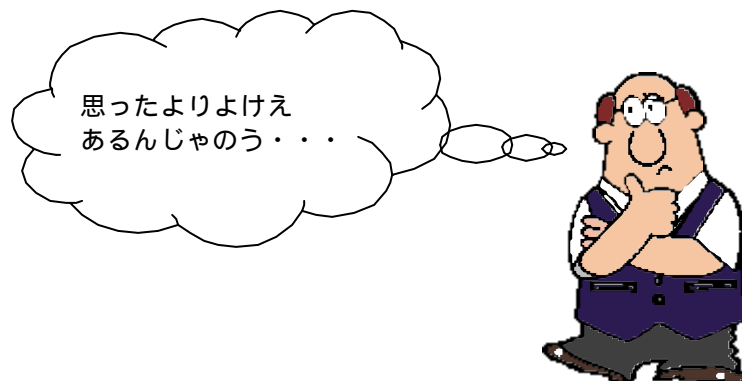
イシハラヤ	石原屋	エモトヤ	江本屋	ウエダヤ	上田屋	オーエヤ	大江屋
オーサキヤ	大崎屋	オリイヤ	折井屋	コガワヤ	小川屋	シゲムラヤ	重村屋
タケモリヤ	竹森屋	タチバナヤ	立花屋	タナカヤ	田中屋	ツボミヤ	坪見屋
トクナガヤ	徳永屋	ナカムラヤ	中村屋	ナダヨシヤ	灘吉屋	ハシモトヤ	橋本屋
フクダヤ	福田屋	マツモトヤ	松本屋	ミクニヤ	三国屋	ミョウデンヤ	名田屋
モリシゲヤ	森重屋	ヤマモトヤ	山本屋	ヤマサキヤ	山崎屋	ヤマネヤ	山根屋
ヤマダヤ	山田屋	ヤマカワヤ	山川屋	ワキタヤ	脇田屋	イツミヤ	泉屋
サカヤ	坂屋	セキヤ	関屋	シゲヤ	繁屋	タルヤ	樽屋
マルヤ	丸屋	モリヤ	守屋				

## 8. 役職・生業関係の屋号

カギヤ	鍵屋	上納米の蔵の鍵を預かっていた家か。庄屋であったという。
ゼニヤ	銭屋	一般には銭貸の両替をおこなった店をいう。土地を多く所有していたという。
コメヤ	米屋	上納米を管理していた家か。庄屋であったという。
シオタヤ	塩田屋	塩を売っていた家。現在もその業である。
サカナヤ	魚屋	魚を嘗なんでいたのであろう。
カミヤ	紙屋	「紙屋」も諸地で聞く屋号で、旧家であることが多いがこの家が販売していたかどうかはわからない。
カジヤ	鍛冶屋	「注進案」に「鍛冶屋」一軒とある。
コーヤ	紅屋	「兄部」(コーベ)姓の家であるという。兄部姓は問物商の姓である。
コーヤ	幸屋	「紅屋」「向屋」とは別姓である。
コーヤ	向屋	向井姓の家。
ワタヤ	綿屋	この家も「綿村」姓である。
ワタヤ	和堂屋	「綿屋」とは本家分家の関係である。
フロヤ	風呂屋	銭湯であった家。水の乏しい島だったので水道が引かれるまでは、自家に風呂がある家はまれであった。
チャヤ	茶屋	
オケヤ	桶屋	桶製造の家。先代の名「清」と合わせて「オケシェー」とも呼んでいたという。
ゲタヤ	下駄屋	下駄屋を営んでいた家。
デンザイヤ	ぜんざい屋	「ぜんざい屋」を営んでいたのは、昭和の始めまで。ただしこのシコナは今も人々の口にのぼる。
ヨロズヤ	萬屋	一般に日常雑貨を商う店をいうが 祝島のこの屋号の意味は不詳。大島から持ってきた屋号だろうという。

## 9. 命名の事情未詳の屋号

シマヤ	嶋屋	一家の嶋屋は三浦三軒の一家であるから「嶋屋」は島の始祖の意味かもしれない。処置で聞く屋号である。
ムラヤ	村屋	諸地で聞く屋号であるが意味未詳。
ウオキヤ	魚木屋	「魚屋」の分家か。
オーノヤ	大野屋	
オーミヤ	大見屋	
スミヤ	住屋	
オグラヤ	小倉屋	「コクラヤかもしれない。」
カワラヤ	加原屋	「川原屋」であろうか。「カワラ」は「川」「溝」の意味か。
キリヤ	霧屋	屋号としては特異である。
	細屋	「網屋」の誤記か。
シカマツヤ	鹿松屋	「鹿」の読み不詳。
ドテヤ	土手屋	意味不詳。現在は「ドテヘーサー」と呼ばれることが多い。
トミナガヤ	留永屋	意味不詳。上関から島に移り住んだという。
トメオカヤ	留岡屋	意味不詳。
ヒノヤ	日野屋	
ナダヤ	灘屋	
ヒラキヤ	平木屋	
ヒラタヤ	平多屋	
ツネミヤ	常見屋	
ヒロヤ	広屋	
フノヤ	符野屋	命名の拠るところは不詳。室積の符野屋は祝島出身と聞いている。







ハマチ

祝島では春から初夏にかけての小さい頃は「ワカナ」、夏の終わりから秋の間は「ヤズ」、1年以上経ったものから「ハマチ」と呼びます。目方で言うと1kgを越えるものくらいから「ハマチ」と言うようです。8月の中頃に300g~400gだった「ヤズ」が12月頃には1kg位に成長しますが、この頃には祝島周辺から遠ざかる年が多いようです。「ハマチ」が大きくなった呼び方に「ブリ」というのがありますが、祝島では「ブリ」という呼び方をしません。漁協では「ハマチ大」とか「ハマチ大々」とか表示していました。

ヤズは、神舞の入り船の日に、三浦で船をつないで一杯飲むときのいい肴です。ハマチはやはり冬が一番旨いようです。三枚に下ろして冷凍しておく、いつでもタタキにして食べられます。カツオのタタキより

旨い！と我が家周辺では評判です。胃袋など内臓を串に刺して焼いてみましたが、旨い！と言ってくれる人は我が家には私しかいませんでした。

鯛釣り用のサガリ(サビキ)で釣ったときには最長55分かけて上げました。引きが強くなかなか弱らない魚です。このときのハマチは8.8kgでした。今までで私が釣って漁協に持っていったハマチの最高記録は9.2kgです。一昨年9.3kgのハマチが上がったそうです。ここら辺が祝島近辺で上がるハマチの最大級です。逃がしたのはもっと大きいのがいると思います。

長い時間かけて釣り上げたハマチはくたびれてイケマで死んでしまうことがよくあります。シメた魚と死んだ魚は味も見た目も違います。イケマで死んだ魚はエラブタが開き、すぐ硬直します。シメた魚は体は軟らかいのですが、身(肉)は締まって白っぽく生臭さが少ないです。ハマチも例外ではありません。

また、小さい魚は釣ってすぐ食べる方が旨く、大きいのは少し置いてから食べる方が旨いようです。ヤズはその日か次の日、ハマチは2~3日後からの方が旨いと思います。



内臓を串焼きにしてみたが・・・



くたびれたハマチ

## お盆に「神舞」映写会を開催しました

8月14日に祝島公民館で「神舞」映写会を開催しました。上映したのは下記の2本です。

1. 昭和47年の神舞(山口放送で放映されたもの)
2. 昭和51年の神舞(記録フィルム)

これらの16mmフィルムは上関町教育委員会に保存されていたものです。会場には、お盆で帰省された皆さんも含めて約60名が来場し、映像の中の懐かしい顔に歓声が上がっていました。



映写会の様子

## <連載> 花\*花クイズ(6)

橋部 好明

前回の花\*花クイズの答えは「ヤブカンゾウ」でした。葉の間から80~100センチ位の花茎を出し、上部に径、約8センチの黄赤色の花をつけ八重咲になるのが特徴です。(草むらから、花だけが顔を出しています。)



ルーツの中国では、別名を“忘憂草”ともいいます。この花をつけると、悲しみや辛いことが忘れられるといわれています。それで“忘れ草”とも。

万葉集には、大伴家持が、忘れ難き恋心を詠んでいます。(巻12 - 3062)

忘れ草 垣もしみみに 植えたれど

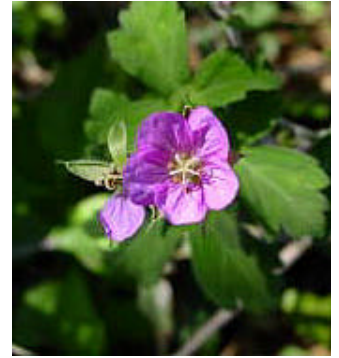
しこ しこくさ  
醜の醜草 なほ恋ひにけり

(忘れ草を「醜の醜草」と罵りながら、垣根にぎっしり植えたけど、全く役に立たず、よけい恋しくなってしまう。)

ちなみに、“忘れな草”は、ヨーロッパの花の和訳で近世以降のもの。だから、万葉集には登場しません。

さて、今月の花の名は?

白花と赤花があります。飲んだらすぐ効くらしい。



これは、お願いですが、掲載の花への想いがあれば、コメントいただければ、花への共有が出来、励みになるのですが……。

## 祝島史跡めぐり (平家塚)

誌面に少し余裕がありましたので、祝島の史跡の紹介記事を掲載します。この記事は、柳井市文化財保護審査会会長の松岡睦彦先生をはじめとする調査団一行が、平成15年3月に祝島に来られた際の調査データを、上関町郷土史学習館の井上美登里さんがまとめられたもので、ご本人の了解を得て掲載させていただきました。

今回は平家塚についての紹介記事です。じつは平家塚周辺が円墳形の古墳ではないかという、ロマン溢れる推

測をされているのですが、そのあたりの記事はまた次の機会に紹介します。



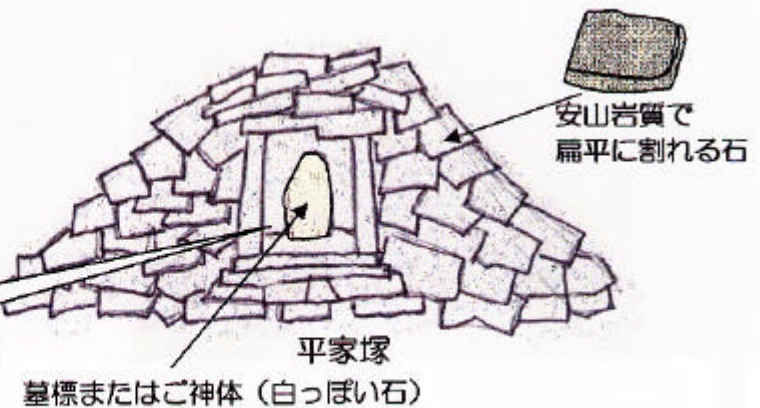
平家塚

### 【平家塚】

平家塚とは、平家ゆかりの人を祀った慰霊墓。

現在ある平家塚は、平安時代の積み石塚を、現形のように積み直したものと考えられる。

平安時代には、このように墓の中に石を祀り、祠のように周囲を石で囲む形は例がない。





## 会員リレーコラム(7) ~ 重村定夫さん、芝郎さん ~

このコーナーは「祝島ネット21」の会員の皆さんに、自己紹介を兼ねて簡単なコラムを書いていただくコーナーです。第7回目は前の祝島郵便局長で最年長会員の重村定夫さんと、現祝島郵便局長の重村芝郎さん親子の登場です。

歴代郵便局長のお二人がどんなコラムを書いてくれるか、楽しみにしていましたが、意外なことにお二人とも文章を書くのが苦手らしく、代わって芝郎さんの奥さんの通子さんがコラムと絵を書いてくれました。通子さんも祝島出身、芝郎さんとは同級生だそうです。



重村定夫さんは祝島の歴史（特に徐福伝説）について、長年研究されており、ご自宅には祝島に関する資料や写真などがたくさんあります。またご自宅の庭には不老長寿の実“コッコ”を栽培されています。

### 「蒼き島」の秋だより

海は藍に染まり「はなぐり」の燈台は一層白く輝いて、見上げれば刷毛雲<sup>はけくも</sup>ふわり・・・

藍と白の奏でるリズムの中、祝島は今「秋」真っ盛りです。

夕暮れに吹く西風は小さな白波を生み、藍一色の海<sup>かすり</sup>に紺<sup>ひはくがら</sup>のような飛白柄を織りなし、褪せてなお、味わい深い藍のありように似て、とても美しく、まるで藍染めの古布の味わいです。

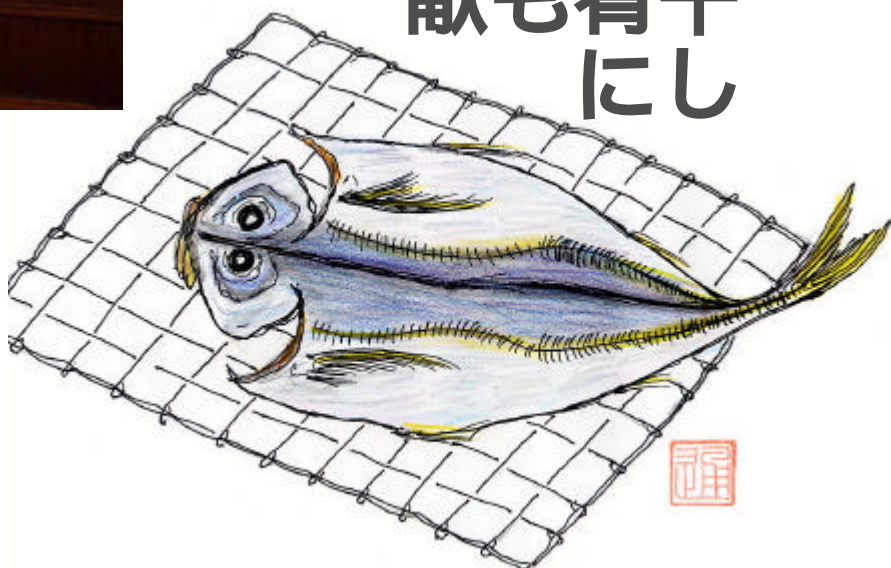
振り返れば山の木々は灰かに色づき始め、時折「ザワツ」と吹く風に、木の葉が舞い落ちて・・・  
ただいま「祝島の秋」満喫しています。

三十六年ぶりの故郷「祝島」は冬に向かう酷しさとは裏腹にとっても温かく、大きな懐に抱かれています。

『う～ら きびわり ここてがえいのや 状態です！』

( ㊦ . 通子 )

今 一鰯  
一宵を夜の  
献も肴干  
にし



## <連載> 聞いてみん菜・食べてみん菜』

### 祝島懐かしの料理(3) ~とんぼらぞうすい~

祝島・食べてみ隊

『とんぼらぞうすい』って何のこと?と思われた方もおられるかと思います。

そもそも『とんぼら』ってなあに?

この夏に、たまたまその話題が出てきまして、『とんぼら』というのはもともと木登りの下手な人のことで、かぼちゃは木にならないところから、かぼちゃのことを『とんぼら(とうぼら)』というのだと聞いたのですが(ちょっと違ったかなー???)、これは祝島独特の呼び方なのでしょう。広辞苑を開いてみましたが、『とうぼら』も『とんぼら』も載っていませんから、少なくとも全国的には使わないようですね。ついでに『かぼちゃ』を引いてみてびっくり!(無学を披露してるようなものですが)なんと、『かぼちゃ』は「cambodia」つまりカンボジアから伝来したというところから付いた名前だったのですねえ。

もう一点、よく分からないのが、雑炊というにご飯を汁物に入れたものと思うのですが、これはご飯が入っていません。『とんぼらぞうすい』は、つまり『かぼちゃぜんざい』ということになるのですが、「雑炊=ごった煮」とするのなら、かぼちゃとあずきとをごったに煮たものと言えなくもないのですが、どうなのでしょう?

さて、『とんぼらぞうすい』の作り方です。  
二つのパートからなります。

#### (1) あずきの部

1. あずきを豆の量の3~4倍の水につけて一晩おきます。
2. 強火にかけて沸騰したら湯を半分捨て、水を加えます。
3. 「落としぶた」をして、さし水をしながらとろ火で柔らかくなるまで煮ます。

#### (2) とんぼらの部

4. かぼちゃを小さく乱切りに



切って、水を入れて火が通るまで煮ます。

5. かぼちゃをつぶします。

#### (3) とんぼらぞうすいの部

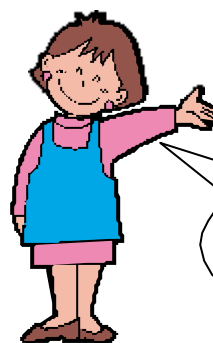
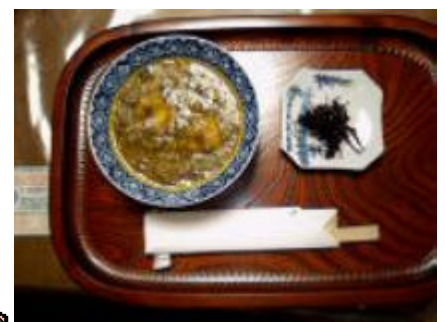
6. 5の鍋に(1)のあずきを加え(あずきの量は好みです)砂糖と少しの塩で味をつけます。

7. 小麦粉(あるいは団子の粉)の粉を少量の水でといてお匙ですくいながら、6の鍋の中に落としていきます。なべ底にくっつくことがありますので、ちょっと底の方をかき混ぜてください。

8. 団子が上に浮いてきたら出来上がり。



「団子は、お供えのおかざりを茹でて千切り込んだ方が旨いがねえ。」との祝島ならではの情報もあり! また、あずきを煮るのが面倒であれば、茹であずきの缶詰やレトルトで代用すれば簡単ですね。ちなみに我が家で作った『とんぼらぞうすい』は、団子が多すぎたのか重たくなり過ぎの感がありましたが、現代っ子の愚息とその友人はみごとにきれいに食べていました。スナック菓子の世代には意外や新鮮なものなのかもしれません。



意外と簡単じゃろ!  
作ってみんさい!



# Let's Learn English in Iwaishima !

岸本 智恵美

## Part1. Dennis's first visit to Iwaishima (6)

\* デニス是我的の友達です。

I understand how Iwaishima appeared after the ice age. Now please tell me when people came to Iwaishima and began to live.

(氷河期の後、どうやって祝島ができたかわかりました。次は、いつ人が祝島にやってきて住み始めたか教えて下さい!!)

Yes! It was...  
(はあ、そりゃあ...)

Good evening.  
This is Ms. Fujinaga.  
May I come in?  
(こんばんは。藤永じゃが入ってもえいかのんたあ?)

Yes, Please come in.  
(はい。入りませえ。)

Dennis (デニス)

Hashibe-san (橋部さん)

Hey, you guys! Sorry to interrupt you... but have you ever watched a TV program called "Let's stay in the country side." ?  
I hear that Enoki Takaaki, who is a famous actor and also an artist, visited Iwaishima and stayed at Mr. Yamane's residence. Do you know that?

(こりませえ、あんたらあ、じゃあせてすまんのじゃが... あんたらあ「田舎に泊まるう!」いうテレビを見たことがあるで? 榎木孝明いう有名な俳優で画家でもある人が祝島へ来て、山根さん方へ泊まったらしいで。 知っちょるで?)

Fujinaga-san (藤永さん)

Yup, I know.  
We had dinner together with him.  
(はあ、知っちょるで。一緒に晩ごはん食べたんじゃあ。)

Fumi-chan (フミちゃん)

Oh! Did you? The program was aired on September 14th.  
He was very handsome and had a good manner.  
Both of you were on the screen for a few seconds.

(うら、それで! その番組は9月14日に放送されたんじゃあ。あのひたあ男前ですきらしかったで。あんたら二人も、ちよびつと映ったで!!)

That's great.  
Was I beautiful?  
(せえがえいのや。わしゃあきれえなじゃったかのんたあ?)

(あらずじ)  
初めて祝島を訪れたデニスは祝島がとても気に入りました。祝島に興味を持ったデニスは、橋部さんに祝島についていろいろと教えてもらっていましたが、そこに藤永さんが乱入! テレビ番組の「田舎に泊まるう!」に祝島が出た話で盛り上がっています。

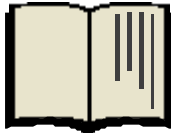
## 活動紹介

「島の細道」200部達成！

4月から販売しております、「島の細道」紀行文集の販売数がほぼ200部になりました。手製インクジェット版が約120部、印刷版が約80部で、合計すると約200部を販売したことになります。

読者の皆さんには、かなり好評のようです。特に、昔の祝島の話は、高齢の方にとっては懐かしい思い出が蘇り、若者にとっては新鮮な発見があるようです。

在庫が残り20部となりましたので、年内には増刷する予定です。また、「島の細道パート2」を計画してもいいのではないかと考えていますが、いかがでしょうか？



## お知らせ & 募集

「イラストマップ」を活用しましょう！

前号でもお伝えしましたが、7月に祝島イラストマップを製作しました。当会の活動を島民の皆さんに広く知っていただけるよう、祝島自治会を通して、島内の全家庭に無料配布させていただきました。また、旅館・民宿の他、漁協・えびすや商店でも販売していただいております。

最初に1000部製作しましたが、不老長寿マラソンや万葉ツアー等のイベントなどで利用していただいた結果、足りなくなってしまうので、追加で2000部製作しました。したがって、現在のところ在庫は十分あります。会員の皆さんには、ぜひこれを祝島の紹介などに有効にご活用いただきたいと思います。

販売価格は1部100円です。

一括大量購入（50部以上）の場合は割引させていただきますので、別途ご相談ください。

Yahoo! eグループに登録していますか？

会員間の情報交換を行なうツールとして、Yahoo!eグループを利用しています。こちらでは、メーリングリストでは送れない画像や各種のファイルを投稿・閲覧することができます。利用にはメールアドレスの登録が必要ですので、登録希望の方は下記のURLで登録を行なうか、直接國弘までメールを下さい。

<http://www.egroups.co.jp/group/i-net21>



## 編集後記

9月は残暑が厳しかったですが、10月に入ってから秋らしい爽やかなお天気の日が多いですね。収穫の秋、今、祝島で道を歩いていると、あちこちの家に干し柿が吊るしてあったり、道端にサツマイモを干していたりしています。早生ミカンも出回ってきました。今年のミカンは甘みが薄いような気がするのですが、梅雨時に雨が多かったせいでしょうか。

さて、今回の会報の編集作業はとても手こずりました。今までの8ページ構成ではどうしても入りきらなかったため、10ページに増やしたのですが、今度は記事が足りなくて・・・。「帯に短し褌に長し」ってやつですね。そんなこんなで、苦労してようやく第7号が出来上がりました。

ところで、先日、新幹線のグリーン車においてある雑誌「ひととき」の記者の方が、祝島に取材に来られていました。12月号の瀬戸内海特集の中に祝島も登場するようですよ。尚、グリーン車に乗らなくても駅のキヨスクで買えるらしいので、ぜひご覧下さい。テレビの「田舎に泊まろう！」にも出たし、祝島もずいぶん有名になってきましたね。

次号は来年1月発行の予定です。お楽しみに。

(編集長：國弘秀人)

事務局では会員の皆さんからの投稿をお待ちしております。ご意見・ご感想・身近な情報など、お気軽に投稿してください。  
祝島ネット21では随時会員を募集しています。

《発行》 祝島ネット21事務局

〒742-1401 山口県熊毛郡上関町祝島

ホームページ <http://www.iwaishima.jp/inet21/>



もうすぐゴッコウが食べ頃です